

第二部「エコ講座」

地球環境を脅かす

プラスチックごみを減らそう

くにびきエコクラブ

2022/10/21 島根県連合婦人会実践活動研究集会



地球環境を脅かす

プラスチックごみを減らそう

海にはプラスチックがいっぱい

世界中で大量のプラスチックごみが海に流出しています。北太平洋には、海流で運ばれたプラスチックごみが集中する海域（太平洋ごみベルト）があり、その広さは日本の国土面積の約4倍。地球環境に様々な影響を及ぼす海洋プラスチック問題は深刻です。

海洋生物を危機に

海鳥や海亀、鯨などがプラスチックをエサと間違えて食べる、体に絡まるなどして、その生存環境が危機にさらされています。

人の健康にも影響

海中のプラスチックはやがて微細な破片（マイクロプラスチック）となり、魚などの体内に取り込まれます。食物連鎖の過程でプラスチックの有害物質が濃縮され、最終的には人間の健康被害につながる恐れがあります。...

地球温暖化を加速

太陽光や水にさらされているプラスチックからは温室効果ガスのメタンが発生します。また、焼却されるときには大量の二酸化炭素が放出されます。

くにびきエコクラブ <http://www.kunikatsu-ring-net/group/000271.html>
このチラシは、「全労済地域貢献助成事業」に関わる助成金を受けて作成しています。

増え続ける海洋プラスチックごみ

大量生産でき、軽くて丈夫なプラスチックは、あらゆる場面で便利に使われ、増加の一途をたどってきました。しかし一方で多くは使い捨てられ、それらは最終的に海へと行き着きます。すでに世界の海にはプラスチックごみが1億5千万トン存在し、そこへ新たに年間8百万トン（ジャンボジェット機5万機の重量）が流入すると考えられています。このままだと、2050年には海洋プラスチックごみは海の魚の量を上回ると予測されています。



2050年には魚の量を上回る

資源循環、プラごみ排出ゼロ社会へ

海洋プラスチック問題は、世界や国、自治体等の対処方針のもと、事業者（提供する側）、消費者（使う側）の双方が責任を分かち合い、それぞれの立場でできることを緊急に実行することが重要です。

通利サービスの見直し

- レジ袋の無料配布をしない
- 過剰包装をしない（二重包装、個包装、容器、宅配過剰包装・梱包など）

提供方法の改善

- 量り売りの導入・拡大（自動化の量り売りも登場）

代替素材へ変更

- 容器包装素材を植物由来など生分解性のものへ
- 商店などで紙袋の採用
- リサイクル素材の利用

現場で発生する廃プラを資材原料に循環利用

- 革新的技術の開発
- プラスチックリサイクルなどの画期的な技術開発



事業者
（企業・商店）

消費者
（市民）

研究機関

政府・NGO
（自治体）

市民・事業者と連携

<政府・自治体>

- プラスチックごみに関する国家戦略や規制など枠組み策定
- 研究技術開発で企業と連携

<NGO>

- 海洋漂着ごみの一斉清掃など市民に呼びかけて協働

使い捨てプラの削減

- レジ袋をもらわない（マイバッグを持参）
- 使い捨てフォークやストローの使用を控える
- 水筒携帯などによりペットボトル飲料の利用を控える
- 過剰包装は断る
- 量り売りや詰め替え商品を利用する
- 修理して繰り返し使う
- 中古市などに出す
- 分別・資源回収を徹底

増プラの発生阻止

- ポイ捨て、不法投棄をしない
- 海岸や街の清掃活動

皆様、お手元にこの「プラスチックごみを減らそう」と記載しているチラシをお持ちでしょうか！（チラシを手にとって上にかざす）

このチラシは、第1部で上演しました「海亀の涙」にあわせて、くにびきエコクラブで作成したオリジナルチラシです。

はじめに、表面（おもて）の「プラスチックごみの現状」と裏面（うら）の「増え続けるプラスチックごみ」について、説明します。

まず、次の映像をご覧ください。

2

ポイ捨てごみはどこへ行く？ ～海を漂うプラスチック～

映像提供：City of Yokohama

「ポイ捨てごみはどこへ行く？～海を漂うプラスチック～」

映像(動画) 提供：City of Yokohama 2分23秒 音声・テロップ入り

お店でもらったレジ袋 ペットボトル たばこのフィルター 街中で何気なくポイ捨てされた「ごみ」 この街中で捨てられた「ごみ」が 辿り着く場所そこは..... 海

どうして街中から離れた海に「ごみ」が辿り着くのでしょうか？ 街中で捨てられた「ごみ」は風に飛ばされたり雨水と一緒に排水溝などを伝って川へ流れ込みます 街中から川へ流れ込んだ「ごみ」は 川の流れによってやがて海に辿り着くのです

こうして海に辿り着いた「ごみ」をクジラや魚・鳥などは餌(えさ)と間違えて食べてしまいます 「ごみ」は胃などに溜り続け やがて餌(えさ)を食べることが出来なくなり死んでしまうことがあります

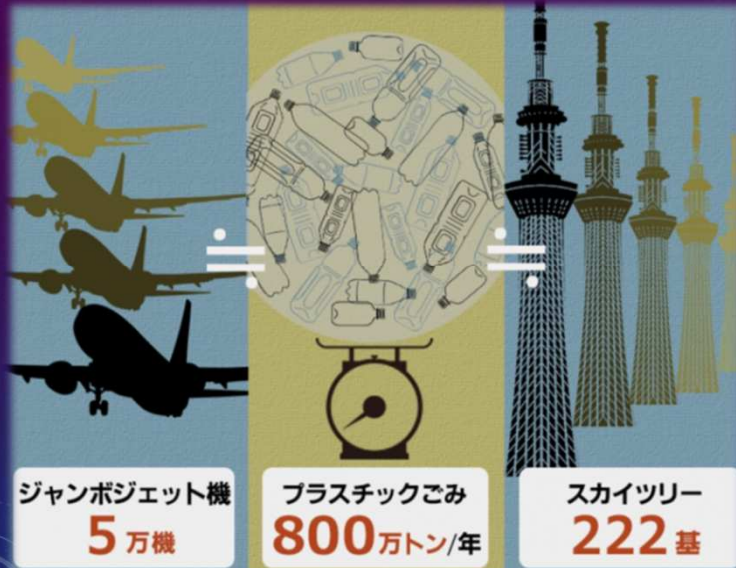
魚や鳥が食べてしまうだけでなく「ごみ」が体の一部に引っ掛かってしまい 怪我をするなど 命に関わってくることもあるのです

それだけではありません「プラスチックごみ」は 波や紫外線の影響を受けてボロボロになっていきます
ボロボロになった「プラスチックごみ」は 小さく細くなり 無くなることなく海を漂います
それらを小魚や買いかぶりプランクトンまでもが 餌（えさ）と間違えて食べてしまうのです

街中でポイ捨てされた「ごみ」は川に流れ 海に辿り着き 海の生物にまで大きな影響を与えているのです
実際に海岸に打ち上げられている「ごみ」のうち およそ70%が山や街 川原などから川を通じて流れ出た「ごみ」だという調査結果があります

海に漂う「プラスチックごみ」の問題は こうしている今も起こっています 私たちができることはなんですか！

増え続ける海洋プラスチックごみ



太陽光や水にさらされた
プラごみ

メタンが発生

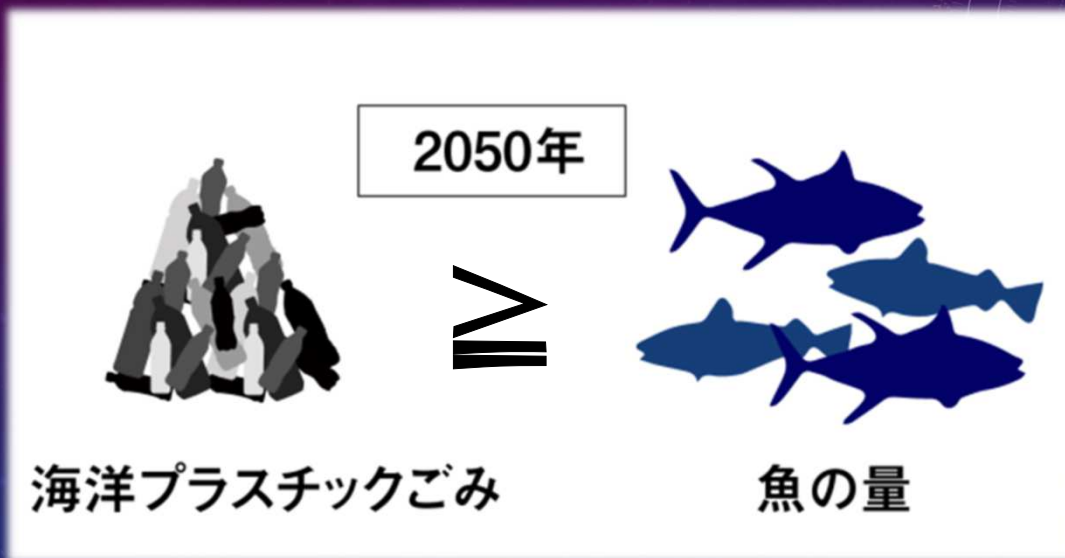
温暖化を加速

資料：日本財団（海洋プラスチックごみ、その厳しい汚染の現実）

既に世界の海に存在しているといわれるプラスチックごみは、合計で1億5000万トン。そこに少なくとも年間800万トンから1000万トンとも言われるプラスチックごみが新たに増えていると推定されています。

海に流れ込んだプラごみは、太陽光や水にさらされ、温室効果ガスのメタンが発生し、地球温暖化を加速させています。

増え続ける海洋プラスチックごみ



資料：日本財団（海洋プラスチックごみ、その厳しい汚染の現実）

今後共、環境に負荷をかけた「経済活動」が続く限り、2050年にはプラスチック生産量はさらに4倍となり、「海洋のごみのプラスチック量が海にいる魚の量を上回る」というショッキングな予測が出ています。

資源循環、プラごみ排出ゼロ社会へ



SDGs
(持続可能な開発目標)

12 つくる責任
つかう責任



次に、チラシ裏面(うら)の「資源循環、プラごみ排出ゼロ社会へ」についてお話しします。

近年、経済発展と豊かさを追求した国造りは、大量生産・大量消費・使い捨てを生み、地球本来の循環型社会を崩壊させました。

また、化石燃料の乱用によるCO2の大量放出により、地球温暖化を招き、異常気象・海面上昇・干ばつ・熱中症患者の増大などを招きました。

このような状況を少しでも改善するためには、資源を生産・消費し、廃棄する一方通行の「使い捨て経済」を、生産したものをリサイクルやリユースするなど再資源化し何度でも利用する「循環型経済」に変えていかなければなりません。

国連が定めたエスディージーズ「持続可能な開発目標」にも「循環型経済」の重要性が掲げられ注目が集まっています。



SDGs (持続可能な開発目標)

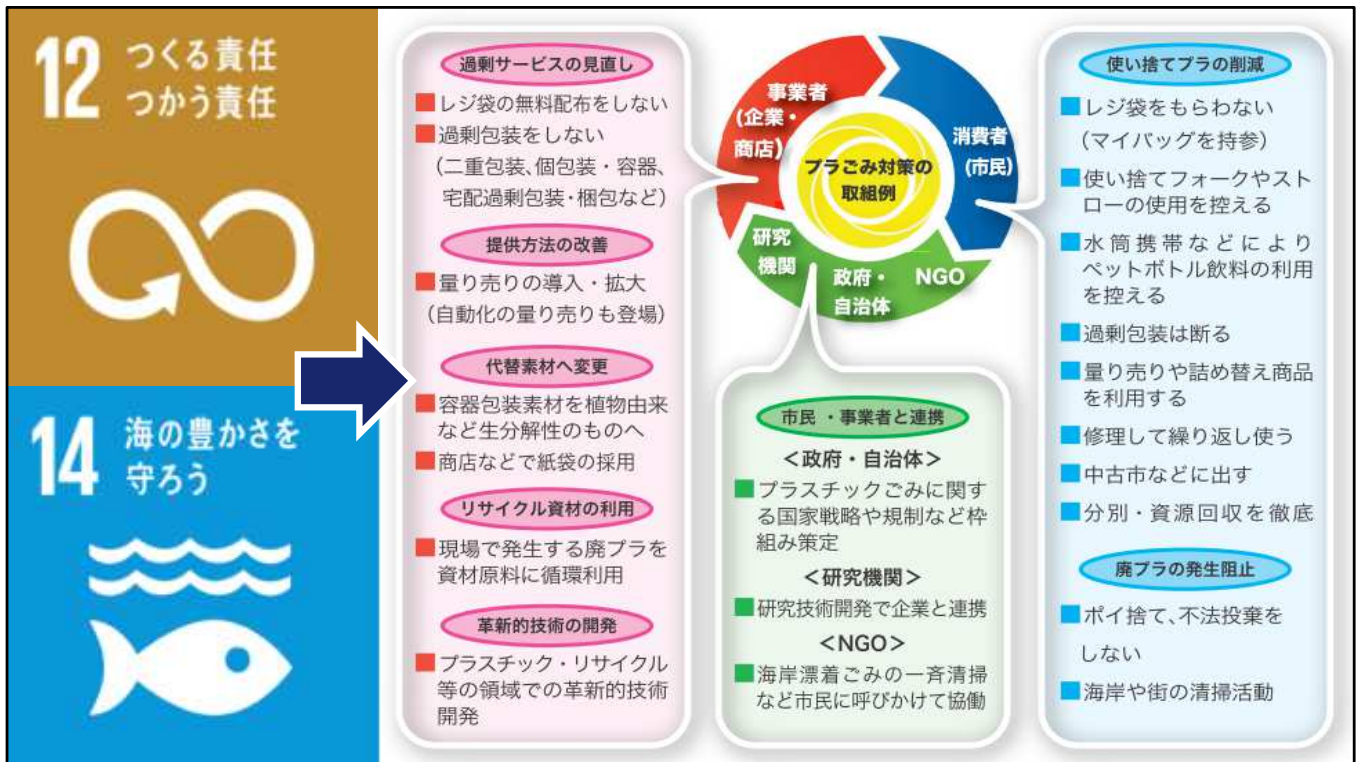
2015年9月の国連サミットで全会一致で採択。「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のため、2030年を年限とする**17の国際目標**(その下に、169のターゲット、232の指標が決められている)。特徴は、以下の5つ。



- 普遍性** 先進国を含め、**全ての国が行動**
- 包摂性** 人間の安全保障の理念を反映し「**誰一人取り残さない**」
- 参画型** **全てのステークホルダーが役割を**
- 統合性** 社会・経済・環境に**統合的に取り組む**
- 透明性** **定期的にフォローアップ**

資料：「持続可能な開発目標」(SDGs)について 2019年1月 外務省

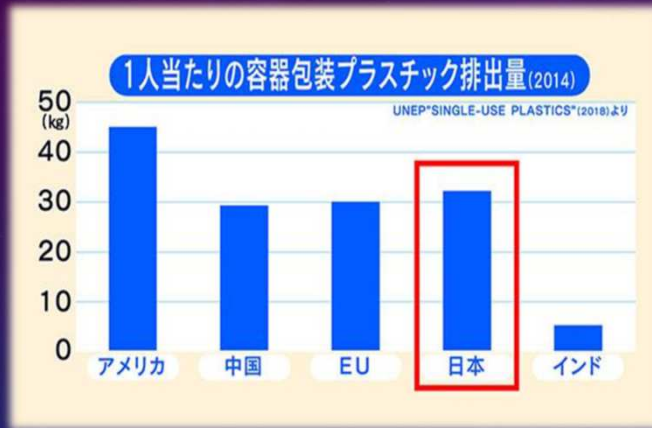
SDGs (エス ディー ジーズ) とは、2015年9月の国連サミットで 全会一致で採択された「誰一人取り残さない」持続可能で多様性のある社会の実現のため、2030年を年限とする 17の国際目標です。



「プラごみ排出ゼロ社会へ」を、SDGs (エス・ディー・ジーズ) に当てはめると「(12) つくる責任・つかう責任」「(14) 海の豊かさを守ろう」に当たります。

海洋プラスチック問題は、世界や国、自治体 が協力し、事業者 (つくる側)、消費者 (つかう側) 双方が責任を分かち合い、それぞれの立場でできることを緊急に実行することが必要です。

日本は一人当たりの**プラごみ発生量**は、
世界**ワースト2位** **32Kg/年間一人当たり**



1位 アメリカ 45Kg

2位 日本 32Kg

3位 E U 30Kg

資料：「UNEP SINGLE-USE PLASTICS2018」より

Plastic packging waste generation,
2014 (million Mt)

世界中で起きている「海洋プラスチック」の問題。日本は一人当たりのプラごみの発生量は年間32Kgで、アメリカに次いでワーストツー、世界で2番目に多い国です。

日本は一人当たりの**プラごみ発生量**は、
世界ワースト2位 **32Kg/年間一人当たり**

30ℓ プラごみ袋
(約1.2Kg/1枚)



一人当たり
約25袋/年間
(約2袋/月)



日本の一人当たりプラごみの発生量 年間32Kgは、例えば 30リットルプラごみ袋に換算すると、年間で25袋、月当たり2袋出している計算になります。

皆さんのお宅ではいかがでしょうか。

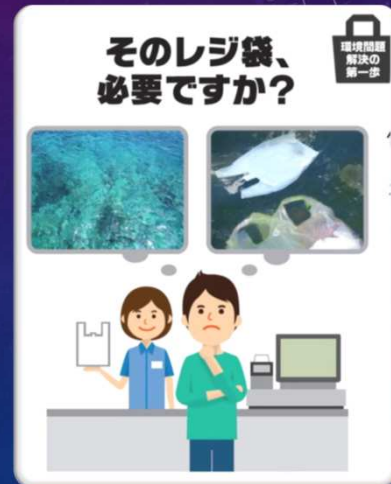
プラスチック製買物袋が有料化になりました

2020年7月1日より
レジ袋が有料化されました



(ただし植物由来で環境負荷の小さいものや、厚さ0.05ミリ以上のものは有料義務化の対象外)

(※この通知はあくまで参考情報であり、必ず002-51101000の消費者相談センターに確認ください)



ー昨年の7月1日から全国的にプラスチック製買物袋（レジ袋）の有料化がスタートしました。

これは、全ての小売業者に適用され、今まで無償でレジ袋を提供していた、コンビニ・百元ショップやホームセンターなどにも適用されます。

この制度の目的は、過剰な使用を抑制することと、消費者のライフスタイルの革新を促すためのものです。



プラスチックは えらんで減らしてリサイクル

プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律が
2022年4月1日から施行されます

プラスチック製品の設計から排出・回収・リサイクルに至るまで、
プラスチックのライフサイクル全般に関わる事業者・自治体・消費者の皆さまで、
3R+Renewable(再生材・再生可能資源)に取り組んでいきましょう

今年の4月1日には、「プラスチック資源循環促進」の新しい法律がスタートしました。

プラスチックについて、単に「捨てるのを減らそう！」ではなく、「捨てることを前提としない経済活動や生活習慣に改めよう！」としているのが特徴です。



削減が求められるプラ12品目

対象品目 (12 品目)

百貨店、スーパー コンビニ、飲食店 等	フォーク スプーン ナイフ マドラー ストロー
ホテル 等	ヘアブラシ くし カミソリ 歯ブラシ シャワーキャップ
クリーニング店 等	プラスチックハンガー ポリ包装

この法律では、ヘアブラシやストロー、スプーンなど使い捨て**プラスチック製****品12品目**を多量に提供する事業者に対し、削減を義務付けました。私たち消費者も提供を求めることを控えましょう。

12品目は他に、フォークやナイフ、マドラー、くし、かみそり、歯ブラシ、ハンガーなどがあります。コンビニやホテル、クリーニング店のほか、宅配ピザを手掛ける事業者も対象になります。

私たちが、今日から取り組める ごみ減量作戦 (使い捨てプラの削減・廃プラの発生阻止)

① ごみになるものを買わない・断る

*買い物のときはマイバックを持参し、レジ袋をもらわない
マイバック持参を習慣化しましょう



*過剰包装を断り、簡易包装に協力しましょう

*使い捨てフォークやストローの使用を控えましょう



*水筒携帯などによりペットボトル飲料の利用を控えましょう

次に 私たち 消費者（つかう側）が取り組める ごみ減量作戦を紹介します。

その① 「ごみになるものを買わない・断る」 を徹底しましょう。

*過剰包装も断り簡易包装に協力しましょう。

*使い捨てフォークやストローの使用も控えましょう。

*水筒携帯などによりペットボトル飲料の利用を控えましょう。

私たちが、今日から取り組める ごみ減量作戦 (使い捨てプラの削減・廃プラの発生阻止)

② ごみそのものを減らす

*必要なものは、**必要な量だけ**買うようにしましょう

*「**量り売り**」があれば利用しましょう

*「**詰め替え商品**」を利用しましょう



その② ごみそのものを減らしましょう！

*必要なものは、必要な量だけ買うようにしましょう。

*「量り売り」があれば利用し、詰め替え商品も積極的に利用しましょう。

私たちが、今日から取り組める ごみ減量作戦 (使い捨てプラの削減・廃プラの発生阻止)

③ まだ使えるものは、工夫して再度使う

*修理して使えるものは、**繰り返し利用しましょう**

*フリーマーケットなどで、他の人に使ってもらおう



その③ 一度使用した製品をそのまま再利用しましょう。

*フリーマーケットなど、他の人に使ってもらったり、修理して繰り返し利用しましょう。

私たちが、今日から取り組める ごみ減量作戦 (使い捨てプラの削減・廃プラの発生阻止)

④ ごみの分別・リサイクルの徹底

*再生利用できる資源は、きちんと分けて資源回収に出しましょう

*リサイクルされた製品を利用しましょう



その④ ごみの分別とリサイクルを徹底しましょう。

- 再生利用出来る資源は、きちんと分けて資源回収に出しましょう。
- そして、リサイクルされた製品を利用しましょう。

私たちが、今日から取り組める ごみ減量作戦 (使い捨てプラの削減・廃プラの発生阻止)

⑤ 廃プラスチックを出さないために

*ポイ捨て、不法投棄をやめましょう

*海岸や街で、出た廃プラの除去・清掃を行いましょう



その⑤ 廃プラスチックを出さないために、ポイ捨て、不法投棄を止めましょう。

*海岸や街中で、出た廃プラの除去・清掃に積極的に参加しましょう。

次に、事業者（つくる側）の取り組みの例「イギリス スーパーの量り売り」をTBS系Nスタの録画動画でご覧下さい。



「Non Plastic 英国スーパーの量り売り」
2019.08.04 BSS(TBS系) Nスタ より録画 1分47秒 音声入り

この店では 2019年6月から「プラスチックの包装」を出来る限り使わないという新たな取り組みを始めました
野菜や果物は市場の様にそのままの状態か紙の容器などに入れられ並べられています

これまで花や植物に使われていたプラスチックの包装もなくしました
中でも力を入れているのが量り売り「リフィル ステーション」という専用のコーナーを作りました

(男性レポーター) こちらは「パスタのコーナー」ですが、今日は一人分の量しか作らないので、少なめにとった好きなだけの量をタッパーに詰め込んで購入する事ができます

パスタ や シリアル や 冷凍の果物 さらに ワイン ビール といった飲み物の他 液体洗剤 まで量り売りで買うことができます

客が持参した容器を使うため環境にも優しいうえ値段も15%引きとなり お財布にも優しく 買い物をすることができます
食品ロスの削減にも繋がると好評です

(男子客)プラスチックも減らせるし、一度に購入する量も減るから一石二鳥だね

店内の野菜や果物を無料で好きな大きさにカットしてくれる「ベジ キッチン」というコーナーも設けました
プラスチック包装されたカット野菜の商品を減らす事が狙いで、切った野菜は植物由来のプラスチックを使った袋か、客が持ってきた容器に入れて渡します

(女性客) すばらしいです プラスチックなしの商品を買えるので他の店から乗り換えました



現在、国際的な重要課題となっている海洋プラスチックごみ問題。私たち「くにびきエコクラブ」もその現状の一端を知ること、海岸の環境を守ることを目的に、島根半島の野波海岸や古浦海岸で「漂着ごみ回収活動」に参加しています。

海洋ごみの約7割が 街から発生したものです。雨が降った後などに「路上のごみ」が川や水路に流出し海に至ります。海に辿り着いたプラスチックごみは波や紫外線の影響を受けて マイクロプラスチック、すなわち微細なプラスチックのかけらになっていきます。

それらを小魚や貝 プランクトンまでもが 餌と間違えて食べてしまうのです。回りまわって それらは人間の口に入ります。日本人一人当たり一週間に5グラム クレジットカード1枚分のプラスチックを摂取している という調査結果もあります。

海洋プラスチック問題に対処する一番の方策は、日常生活でプラスチックの使用を 極力減らすことです。例えば ペットボトルの利用を控えて 水筒を利用する、レジ袋を断り 持参の買い物袋に入れる、過剰包装を断るなどです。

また、ポイ捨てをしない、家の周辺や街の清掃をするなど、私たちが身近にできることは たくさんあります。

こうした日々のささやかな行動をみんなが心がける それが 問題解決に向けた大きな力になると私たちは信じています。

美しい地球を 子や孫に

くにびきエコクラブ

松江市を拠点に活動の環境市民団体

https://www.shimane-ikiiki.jp/volunteer_groups/920

(島根いきいき広場 くにびきエコクラブ)



最後までご覧いただきありがとうございました。これで、第2部「エコ講座」を終わります。